

銀漢亭日録



伊藤伊那男

1月6日(金)

▼新潟の若井新一さんの作のこしひかり炊く。旨い、この艶のよさ！仕事始め。発行所は「大倉句会」終つて六人。真砂年、対馬さん。奥は事業部が新年大会の俳句大会選句の集計。小島健さん「河」の方と三人など。

7日(土)

▼十時から運営委員会。十三時より「本部句会」四十七人。あと「庄屋」で親睦会。十名程。

8日(日)

▼寒中見舞の宛名書。朝からずつと。午後「春耕同人句会」。終つて「春耕賞」「春耕新人賞」の選考打合せ。終つて親睦会。帰路「未来図」の石地まゆみさんとばったり会ひ、守屋明俊、新海あぐり、遠藤由樹子さんと飲み直し。あと地元ウイノテイクに新年の挨拶かねて寄る。

9日(月)

▼寒中見舞の宛名書終了。結局三百数十枚位か。「春耕賞」選評。新年大会用の短冊、色紙など沢山染筆。夜高井戸温泉美しの湯でのんびり。

10日(火)

▼「火の会」八名程。事業部、新年大会の打合せ。賞品選択など、谷岡、島谷さん中心に走り回つてくれる。麒麟、相智恵、河合さんなど。ほとんど俳句関係者。

11日(水)

▼昼、発行所「梶の葉句会」夜「きさらぎ句会」終つて六人店。

13日(金)

▼発行所「二月号校正作業。寒い日。客少なし。

14日(土)

▼三月号選句。全部終える。日用品買物。散髪。夕方、桃子の家に夕食。からすみ、湯豆腐、シヤンパンなど。

15日(日)

▼十時、青山梅窓院。光代七回忌。親戚十七人、孫六人集まる。本堂にて法要。墓参のあと寺の座敷にて直会。終つて桃子の家に夕食。夕食、博多水炊き。

16日(月)

▼店、井上井月顕彰会堀内功会長、北村皆雄監督、平沢氏など来店。「ほかいびと」伊那の井月」の東京上映についての

17日(火)

▼レジーに年末来の掃除の続きに入つてもらう。新年大会の準備など。店、新年に入ってから客少なし。道遊さん呼び出す。結局、銀座に繰り出して遅くまで。またやつてしまつた！

18日(水)

▼新年大会の年頭挨拶の草稿など。なかなか平成俳壇の選句に入れず。締切はあと二日。店、高校同期「三水会」十一人。先輩の北沢さんなど偶然。発行所は「？」句会。終つて岸本、敦子さんなど五名親睦会。その他久々の超繁忙。菅原庄山子さんより山形の栄光富士の極上酒、濁り酒など到来。

19日(木)

▼「天為」対馬編集長、「未来図」守屋編集長、「銀漢句会」あと十八人。発行所では句会を休んで、操、いづみ、卓さん新年会の用意。

20日(金)

▼雪。バラが散歩ためらう。いよいよ年か。京都の妻の友人より、忌日の供物届く。かれこれ一周忌からずつと続いている。発行所は「銀漢野村句会」。雪のせいか少なく、終つて五人店。前の職場の部下の藤井公認会計士「購読会員」他四人。「未来図」の篠崎央子さん誕生日とて、史ちゃん、肖子さん他。角川新年会の流れで鈴木節子、広渡敬雄、玲奈、敦子、しなだしんさん。発行所は明日頒布のポストカード袋詰め。その作者の北澤、伯さん安曇野から上京。酒飲まず。

21日(土)

▼大寒日。十三時より湯島の全国家電館にて「銀漢俳句会」年次総会。十五時過、湯島天満宮本殿にてお祓を受け、十五時半、客殿にて新年会。お知らせしなかったのに皆川盤水先生の奥様・美弥子様より銘酒二本が届いており、一同感激す。終つてスタッフ中心に発行所に戻り、「銀漢亭」にて直会。あと餃子屋。

22日(日)

▼朝から「平成俳壇」選句。十三時半から久々、宗楽の整体を受ける。十五時、桃子が迎えに来てくれて成城、夕食会。またまたガラスミ、鶏のバジルソース焼など。

23日(月)

▼「平成俳壇」三分分仕上げて発送。締切に三日遅れ。井上

2月1日(水)

▼オリックス時代の部下達七人同窓会。その他は暇。終つて志峯、いづみ、展枝、淳子さんと餃子屋。

2日(木)

▼寒い寒い！店、暇。終つて堀切、史子、清人さんと餃子屋。

3日(金)

▼松山の藤田ひろむさんより愛媛新聞の村上護さんのコラムに小生の句が取り上げられていると電話をいただく。へふるさとの間のぶ厚き節分会」店、伊那の小池百人君が出張で上京。信濃毎日新聞の同時掲載紙持参してくれて。そういえば以前にも同日に「豆撒くや身に」匹の鬼育てを掲載してくれている。村上先生ありがとございます。「白熱句会」水内慶太、藤田直子、檜山哲彦、井上弘美、小山徳夫さん。十句出し。私もメンバー。発行所は「大倉句会」終つて三人。

4日(土)

▼立春大吉。「十六夜句会」の向島浅草吟行会。少し早めに行き玉ノ井を散策。十三時、東向島駅集合。十二人。向島百花園、長命寺、待乳山などを吟行して「ニエ」浅草、五句出し。あと席題三句。あと六区の屋台。

5日(日)

▼休養日。眠れること眠れること。夕方吉祥寺にて酒場二軒。仕事用のスポン二本買う。

6日(月)

▼角川通信添削講座五人分。店、伊勢神宮・河合真如宮司、宮澤正明、小学館担当者。河合、宮澤の「伊勢神宮の智慧」出版の打合せ。発行所は「勉強会」。今日は橋本多佳子。終つて十二人店にて親睦会。店では事業部打合せ。五名。「鵜飼吟行」の件など。結局、知人、俳句関係者以外人も客の来ない日。

7日(火)

▼三月号校正。萩原一夫君本日手術。十時間の予定と。ただただ成功を祈るのみ。店閑散。土肥あき子、覚之介さんと洋酒バー二時。

8日(水)

▼寒さ続く。沢木欣一、細見綾子の御子息太郎さんが昨年七月に剪定中屋根から落ちて死去、六十歳であったと。驚く。発行所「きさらぎ句会」終つて七人。阪西敦子さんの御両親「一月の匣」の水内慶太さん一派四人。などなど賑やか。

24日(火)

▼三月号添削教室。「春耕」新年大会選句など。昨日も今日も風呂で頭を洗っている最中に宅急便来る。困ります。午後、ひまわり館にて「銀漢秋句会」選句に行く。店、対馬、小石、洋さん。「知音」の小沢麻結さん他。客少なし。

25日(水)

▼三月号星雲集同人集月評書く。発行所は「二月号の発送。店、兵庫の会員・播広さん上京で武田編集長他。真砂年、二平、麒麟、うさぎさん勉強会。終つて武田、道遊さん等十人程で餃子屋。

26日(木)

▼彗星集選評、盤水の一句など書く。発行所、佐々木終吉、三代川次郎さんがホームページの件で打合せ。踏青子、春行士さん。客少なく早めに閉めて残ったメンバーで飲む。

27日(金)

▼午前中、予防のための白蟻駆除入る。「春耕」新年俳句大会の選句送る。発行所「金星句会」終つて五人。「月の匣」水内慶太さん三人。道遊さん来て七名程で「焼肉三幸園」。

28日(土)

▼「銀漢の俳句」のエッセイ書き、これで三月号稿了。「門」で一頁使つて「銀漢」を取り上げていただいた鈴木鷹夫先生他に礼状。その他雑務。十四時、日本橋「与志喜」にて「纏句会」。「天為」天野小石さんゲスト十六人。終つて、筍の付け焼、蕪蒸、鯉のうま煮、あと握り。レストラン「イタリヤ」で二次会。あと高円寺「あん」にて、しなだしん、敦子、玲奈、小石さん等の句会に参加。

3029日(月)

▼寒い。一日家。休養日。

31日(火)

▼太田うさぎさん？歳の誕生パーティー。当季雑詠五句持ち寄り二十四人。清人、一平さんの気仙沼大島の同級生で遠洋漁業船第八精良丸の船長・堺秀太郎さんから到来の鮪の刺身！この人数でも食べきれず！